

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会の開催について (第 1 報) ㊦	68
第 3 回産学連携セミナー開催について (第 2 報) ㊦	68
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 22 年秋季～冬季の表紙写真の募集	69
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	70
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い	70
「農業農村工学会学術基金」の募金について	71
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル	
「Paddy and Water Environment」について	71
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと	
編集事務局 (投稿先) のお知らせ	72
「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	73
第 46 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報) ㊦	74
平成 20 年度農業水利研究部会研究集会開催について (第 1 報) ㊦	74
第 58 回理論応用力学講演会の開催について	74
農業農村工学会論文集第 258 号内容紹介	76
学会記事	78

### 第 77 巻第 1 号予定

**展望:** 農業農村工学の深化を求めて: 青山咸康

**小特集:** 創立 80 周年を迎えるにあたって

農業土木学の原点と東大におけるこれから: 塩沢 昌

21 世紀における農村振興: 中條康朗

農業・農村の発展を目指して鳥取県耕地行政の果たしてきた役割と今後の方向: 中村 均

農業土木コンサルタンツとして求められる技術と役割の変遷: 田久保 晃

土地改良の歴史と土地改良区の今後の役割: 佐藤 準ほか

北海道支部 支部活動報告: 相馬尅之

東北支部 " : 嶋 栄吉

関東支部 " : 佐々間泰一ほか

京都支部 " : 有田博之

中国四国支部 " : 野中資博ほか

九州支部 " : 瀬口昌洋

### 技術レポート

北海道支部: 排水機能に優れる「ドレンかご」を用いた法面保護工法: 菊池政男ほか

東北支部: 秋田県におけるほ場整備事業の効果・効用: 石井 学

関東支部: 獣害防止策の路線検討と諸元決定の手法: 内山裕之

京都支部: 揚水機の機能診断調査: 竹山 徹

中国四国支部: 農道橋における長寿命化に向けた取組み (その 1): 砂田健一郎ほか

九州支部: 田んぼの生き物調査を反映させた排水路工事の実施: 小嶋直樹

**小講座:** 農業水利遺構に関する保全制度 (仮): 石川英一

**私のビジョン:** 滋賀県の農業農村と琵琶湖の環境保全を考えて: 畑中隆行

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓔのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成20年12月19日	行事企画委員会	第3回産学連携セミナー		東京都	76巻10,12号
平成21年1月30日	材料施工研究部会	第46回シンポジウム		高知市	76巻12号
平成21年2月7日	農業水利研究部会	平成20年度研究集会	山間地の水利と環境資源の管理 首都圏からの堰浚い活動交流の効果	東京都	76巻12号
平成21年2月3日	北海道支部	地方講習会		札幌市	
平成21年8月4~6日	大会運営委員会	平成21年農業農村工学会大会講演会		つくば市	76巻12号

### 平成21年度農業農村工学会大会講演会の開催について(第1報)

大会運営委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成21年度農業農村工学会大会講演会は、茨城県つくば市の筑波大学筑波キャンパスにおいて平成21年8月4日(火)~8月6日(木)に開催を予定しています。なお、発表の投稿要項、参加申込方法など、詳細は続報でお知らせいたします。

1. 開催期日 平成21年8月4日(火)~8月6日(木)
2. 主会場 筑波大学筑波キャンパス  
〒305 8572 茨城県つくば市天王台111
3. 講演会 平成21年8月4日(火)~8月6日(木)
4. 交流会 平成21年8月4日(火)

### 第3回産学連携推進セミナー開催について(第2報)

行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



第3回産学連携セミナーのプログラムがほぼ決定しましたのでお知らせいたします。ふるってご参加下さい。

#### 記

1. 日時 平成20年12月19日(金)10:00~18:30
2. 場所 農業土木会館6F大会議室
3. 主催 (社)農業農村工学会  
後援 (独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所  
(社)土地改良建設協会  
(社)農業土木事業協会
4. プログラム  
10:00~10:10 開会挨拶 行事企画委員長 元杉昭男  
10:10~11:50 プレセッション 民間企業技術紹介  
(株)ナカボーテック 経営企画室長 松本貴雅  
「農業用管路のマクロセル腐食防止工法(電気防食工法)」  
農業用水路更新工法研究会 日本電気硝子(株) 杉山基美  
「ポリマーセメント系水路更新工法(NSアグリコート工法)」  
日本建設技術(株) 代表取締役 原 裕  
「保水機能を有する舗装」

- 大成建設(株) 土木技術研究所 秋吉美穂  
「埋土種子を用いた湖岸植生帯の再生についての取り組み」  
(株)イーラボ, エクスぺリエンス 島村 得  
「農地土壌情報モニタリングキットの開発」  
青木あすなろ建設(株) 坂本浩之  
「非破壊探査システム「オーリス」を適用した調査事例のご紹介」  
栗本化成工業(株) 奥谷篤史  
「スリーブインライト工法の紹介」  
(株)ダイヤコンサルタント  
「未定」  
(株)大塚工業  
「未定」  
11:50~13:00 昼食  
13:00~16:20 産学連携セミナー  
13:00~14:00 1 競争的資金, 官民連携事業等の紹介  
農林水産省農村振興局設計課施工企画調整室課長補佐 瀬戸太郎  
「新技術の評価と導入について」  
(独)農村工学研究所技術移転センター長 小泉 健

- 「産学官連携の意義と農村工学研究所の役割」  
 ③日本大学生物資源科学部 専任講師 鈴木哲也  
 「官学連携によるコンクリート水利構造物の定量的損傷  
 度評価 DeCAT システムの開発と構造体コンクリ  
 ートへの適用」  
 14:00~16:20 2 大学による研究紹介  
 九州大学大学院農学研究院生産環境科学部門  
 助教 金山泰平  
 「実測値に基づく地盤の圧密沈下予測手法への構築」  
 九州大学大学院農学研究院生産環境科学部門  
 助教 弓削こずえ  
 「農作物に水分や水ストレスを与える場合の効率的かつ  
 効果的な水循環システムの開発」  
 九州大学大学院生物資源環境科学府  
 博士課程 3年 濱上邦彦  
 「閉鎖性水域の流れと水生植物の繁茂量との関係」  
 筑波大学大学院生命環境科学研究科  
 特別研究員 山下裕司  
 「環境の化学的変化に応じて複雑に変化する「フミン酸」  
 の移動特性の検討」  
 三重大学大学院生物資源学研究科助教 伊藤良栄

- 「磐田用水東部土地改良区における情報技術の活用」  
 東京大学大学院農学生命科学研究科  
 修士課程 1年 出井宏樹  
 「水田からのメタン放出の水管理による制御に関する基  
 礎的研究」  
 北海道大学農学部 准教授 井上 京  
 「有機物汚濁を浄化するヨシ濾床人工湿地システム」  
 16:20~17:00 ポスターセッション  
 17:00~18:30 情報交換会  
**5. 受講費** 産学連携セミナー(CPD 単位の取得:6ポイント)  
 産業界の参加者:3,000円/人  
 官・学の参加者:無料  
 情報交換会 3,000円/人  
**6. 申込方法**  
 学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/>) より行事参加申込書をダ  
 ウンロードし、FAX または E-mail でお申し込み下さい。  
**7. 申込み・問合せ先**  
 (社)農業農村工学会調査研究部  
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494  
 E-mail: [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

**身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!**

**「水土の知(農業農村工学会誌)」平成22年秋季~冬季の表紙写真の募集**

学会誌編集委員会では、平成22年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

**趣 旨**

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にけい込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

**記**

**1. テーマ**

水土の知 76(12)

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」  
 (昨年と同様)

**2. 対象巻号**

学会誌第78巻(平成22年1~12月号)のうち、特に秋季~冬季のもの

**3. 写真の種類**

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

**4. 枚 数**

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

**5. 締 切** 平成21年3月31日(秋季~冬季の写真)

**6. 審 査**

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

**7. 結果発表**

学会誌第77巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成21年度大会会場でパネル展示します。

**8. 謝 礼**

採用作品には規定の掲載料(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

**9. 「Cover History(表紙写真由来)」について**

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

#### 10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしないことが採用の

条件となります。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明)を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

### 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

#### 行事企画委員会

#### 技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 18 CPD ポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

#### 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

#### 3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03 5777 2098)

#### 4. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD ポイント、満点で 1.5 CPD ポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

### 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

#### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害

対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛け

る。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

### 「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 19 年度までに 46 件の実績をあげています。

**個人会員一口** 5,000 円（何口でも可）

**法人会員一口** 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008 年 12 月末に Vol 6, No 4 が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々から国際学会へ入会されることを望みます。掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気

象環境）

⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003 年 3 月創刊、以後 3 カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊（送料等学会負担）

申込先：農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年12月末にVol 6, No 4が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**投稿先**：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment  
Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building #205  
635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703,  
Korea.  
Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565  
6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will  
be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、

土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

### 編集体制

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN),  
Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering,  
National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of  
China

**出版社**：Springer Verlag社（ドイツ）

**投稿資格**：筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等**：http://www.jsidre.or.jpに詳細を記載しています。

なお2008年1月1日から投稿先等が韓国から台湾に替わります。詳細は次号でお知らせいたします。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 ( A4 判 1,500 字以内 )	原 稿 締 切 ( 刷 上 り 4 ページ厳守 )
77 巻 1 号 創立 80 周年を迎えるにあたって	公募なし	
2 号 農業農村整備技術の継承と技術者の育成 ( 仮 )	公募終了	
3 号 土地改良事業の外部経済効果の算定手法 ( 仮 )	公募終了	平成 20 年 12 月 28 日
4 号 ストックマネジメントの最前線と実務的課題 ( 仮 )	平成 20 年 12 月 22 日	平成 21 年 1 月 31 日
5 号 地域色豊かな自治体の独自事業 ( 仮 )	平成 21 年 1 月 26 日	平成 21 年 2 月 28 日
6 号 大会関連 ( 仮 )	公募なし	平成 21 年 3 月 31 日
7 号 食料自給率の向上に向けた農業農村工学技術 ( 仮 )	平成 21 年 3 月 14 日	平成 21 年 4 月 30 日
8 号 地域バイオマスの利活用 ( 仮 )	平成 21 年 4 月 15 日	平成 21 年 5 月 30 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 ( 社 ) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

77 巻 4 号テーマ「ストックマネジメントの最前線

水路工のストックマネジメント実施における実務的課題」( 仮 )

平成 19 年度から本格導入された水利施設のストックマネジメントでは、既存施設の有効利用や長寿命化を図り、LCC ( 機能保全コスト ) を低減することを目指して、国、地方公共団体、コンサルタントなどの技術者が最前線で 機能診断 劣化予測、機能保全対策の検討、LCC 算定といった課題に取り組んでいます。

しかし実務レベルでは、構造性能と比較して、水理・水利用性能に関する機能診断の取組みが遅れていること、機能診断結果に基づく劣化予測や対策工法の選定、およびそれらに基づく LCC 算定の困難さなど、多くの課題が浮き彫りになってきています。このため、ストックマネジメントにおけるこれらの課

題の認識と課題解決に向けた取組みにおける工夫を、最前線の実務担当者間で共有することが急務となっております。

そこで、農業水利施設の機能診断とそれに基づく対策の選定方法、および LCC 算定に関する具体的事例や実務的課題、水理・水利用性能の機能診断の展望および具体的な調査事例 ( 流量、水位、漏水量、粗度係数等 ) に関する報文を募集いたします。

なお、本テーマの対象とする工種は、水路工、用排水機場、頭首工など幅広いため、今回は現場ニーズが高い開水路、水路トンネル、パイプライン等の水路工に限定いたします。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」,「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷上り 2 ページ ( 4,000 字程度 ) で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷上り 1 ページ以内 ( 1,200 字 ) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

## 第46回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第2報)

材料施工研究部会

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ  
「巨大地震をめぐる農業水利施設の機能保全上の技術的課題  
～九州・北陸・東北から南海に向けて～」(仮題)
3. 講師 農林水産省・研究機関・大学・自治体・民間の研究者および技術者(予定)
4. 期日 2009年1月30日(金)9:50～17:00
5. 会場 高知県立県民文化ホール グリーンホール  
〒780 0870 高知市本町4 3 30  
<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~hall/>
6. 参加費 4,000円 当日、受付にて徴収させていただきます。
7. 申込  
以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジ

- ウムへの参加申込」と明記して下さい。参加者氏名, 所属機関名, 所在地, TEL, FAX, E-mail アドレス, 弁当(代金¥1,000)予約注文希望の有・無
8. 申込先 〒783 8502 南国市物部乙200  
高知大学農学部門外 材料施工研究部会事務局  
申込受付担当: 松本伸介, 佐藤周之  
TEL&FAX 088 864 515  
E-mail: syu@kochi-u.ac.jp
  9. 申込締切 2009年1月16日(金)
  10. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願い致します。
  11. 問合せ先 申込先と同じです。
  12. その他 詳細は、学会誌次号に掲載予定です。

## 平成20年度農業水利研究部会研究集会開催について(第1報)

農業水利研究部会

技術者継続教育プログラム認定申請中



当部会では、平成20年度研究集会を下記のとおり実施いたすことになりましたので、ここにご案内いたします。

記

1. 日時 平成21年2月7日(土) 14時～17時
2. 場所 日本航空協会 航空会館 204 会議室  
〒105 0004 東京都港区新橋1 18 1 航空会館  
(TEL 03 3501 1272)
3. テーマ 「山間地の水利と環境資源の管理  
首都圏からの堰浚い活動交流の効果」

4. 講演題目および講師  
詳細については学会誌1月号に掲載いたします。
5. 参加料 無料
6. 問合せおよび参加申込先:  
東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科地域資源利用  
学研究室内  
農業農村工学会農業水利研究部会事務局(中村好男)  
TEL 03 5477 2337 FAX 03 5477 2620  
E-mail: nyoshi@nodai.ac.jp

## 第58回理論応用力学講演会の開催について

1. 主催 日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共催 農業農村工学会ほか20学会
3. 開催日 2009年6月9日(火)～11日(木)
4. 会場 日本学術会議(東京都港区六本木7-22-34)
5. 趣旨  
「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、各々の分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしてお

- ります。
6. ホームページ <http://www.jiban.or.jp/nctam/>
  7. 講演申込み  
オーガナイズドセッション、一般セッションのいずれも、J-STAGEの大会演題登録システム(本講演会ホームページからリンク)を用いてお申し込み下さい。締切は2009年2月19日(木)とし、その後はシステムを停止しますのでご注意ください。なお、講演発表は、同一のオーガナイズドセッション内では原則として1人1回に限ります。
  8. 講演論文集原稿  
審査の結果、採択された講演については、A4判2ページのPDFファイルをJ-STAGEの大会演題登録システム(本講演会ホームページからリンク)を用いて提出いただきます。締切は

2009年4月16日(木)とし、その後はシステムを停止しますのでご注意ください。なお、原稿の整理費につきましては、講演集のCD-ROM化とともに検討中です。決定次第、土木学会HPに掲載します。

**9. 英文論文**

著者の希望により発表論文をあらためて英文で投稿されると、査読による審査を経て後日発行する英文 Proceedings に収録されます。寄稿申込みは、メールと郵送によって受け付けます。英文論文寄稿料として10,000円を申し受けます。寄稿申込み期日は2009年6月26日(金)まで、査読用原稿受付期日は2009年7月24日(金)です。詳細につきましては、土木学会HPおよび今後の会告にてご案内いたします。なお、英文論文集発刊は2010年3月を予定しており、英文論文はJ-

STAGEにも掲載されます。

**10. 問合せ先**

実行委員会 講演担当幹事 松本高志(北大)  
 ☎011 706 6171 FAX 011 706 6172  
 E-mail: takashim@eng.hokudai.ac.jp

**11. 幹事学会事務局**

(社)土木学会 (担当: 増永・竹田)  
 〒160 0004 東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内  
 ☎03 3355 3559 FAX 03 5379 0125  
 E-mail: nctam58@jsce.or.jp  
 土木学会HP:  
<http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html>

**農業農村工学会選書 17**

**機能保全における性能設計入門**

(社)農業農村工学会発行

**目 次**

**第1章 性能設計の現状**

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

**第2章 信頼性の照査**

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベル 信頼性設計法
- 2.4 レベル 信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

**第3章 安全性の照査**

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 せん断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

**第4章 使用性の照査**

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生時の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

**第5章 耐久性の照査**

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

**第6章 機能保全**

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

**第7章 施工および補修・補強**

- 7.1 RC開水路の施工
- 7.2 RC開水路の補修・補強

A5判 約200ページ 定価4,500円(内税・送料学会負担)  
 会員特価2,600円(内税・送料学会負担)  
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105 0004 港区新橋5-34-4  
 (社)農業農村工学会  
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494